

国際シンポジウム2022

第12回信州大学全学教育機構国際交流セミナー

アンシャン・レジームから 近代へ、そしてその先へ —文学と哲学—

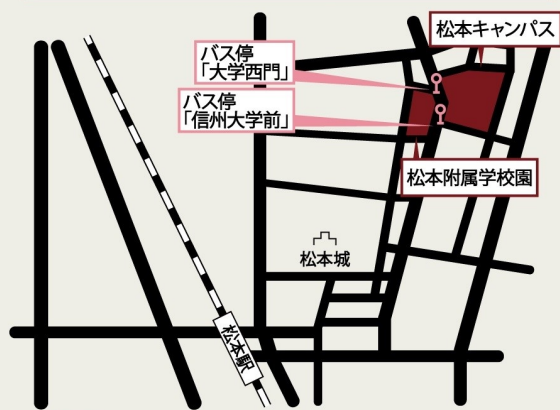
2022.12.10.sat

対面：信州大学全学教育機構第2 講義棟3階71 番講義室

オンライン：お申し込みが必要です

使用言語：日本語・フランス語

アクセス



オンライン
お申込み

2022symposium[at]shinshu-u.ac.jp 宛
12/8 まで

アンシャン・レジーム末期から近代にかけての思潮の変化は、大変大きなものでした。それは、現代にも大きな影響を与えています。

18世紀は大変興味深い時代です。この時代は長らく、「啓蒙」という枠組みで捉えられてきました。

理性の啓蒙によって因習や迷信を打破し、旧来の権威に反抗したという、啓蒙思想についての解説は広く知られています。人々は理性に基づいて、自然界の法を認知するだけでなく、人間社会の法や規範をも打ち立てようと試みました。

プログラム

- 13:00~13:15 開会の挨拶
- 13:15~14:00 18世紀フランスにおけるスピノザ哲学と唯物論
鈴木球子(信州大学)
- 14:00~14:45 バディウのパウロ論に伺われるルソーの思想
松本潤一郎(就実大学)
- 14:45~15:30 19世紀フランスにおける Voyant をめぐって
吉田正明(信州大学)
- 15:45~16:30 修辞としての擬人化の誕生と曖昧さ：ニコラ・ボーゼ
シャルル・ヴァンサン(ポリテクニク・オー＝ド＝フランス大学)
- 16:30~17:15 『百科全書』における「哲学精神」から「哲学史」へ、そしてその先へ
クレール・フォヴェルグ(国際哲学コレージュ)
- 【特別講演】
17:30~18:30 思想の歴史、経時的流れからテーマ別のリゾームへ
ミシェル・ドゥロン(ソルボンヌ大学)

※15:45以降の発表と特別講演はフランスからのオンライン配信になります。対面会場ではスクリーンに投影します

そして、人間は国家や社会といった構造の中に有機的に取り込まれていきました。ですが、こうした流れとは異なる要素、規範や秩序に還元されえないものは、むしろ存在します。

本シンポジウムでは、18世紀とそれに続く時代を構成しているものの中でも、従来「啓蒙」と呼ばれてきたもの以外の要素やそれらの影響に、様々な方向から光を当てていきたいと考えています。